

# トビウオ通信 (12月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 13 年度沿岸イカ釣漁業とスルメイカ資源》

今月は島根県西部の小型イカ釣りによるイカ類の漁獲動向と日本海のスルメイカの資源動向について報告します。

### 小型イカ釣り

浜田港に水揚げされた地元小型イカ釣り船によるスルメイカとケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量および CPUE(1 隻 1 航海当たりの漁獲量)の変動を図 1~2 に示します。

#### スルメイカ依然として低調

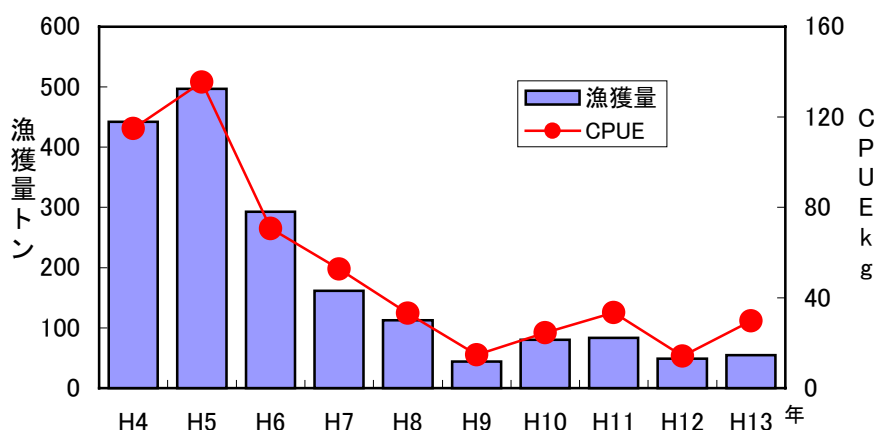


図 1 浜田地元小型船によるスルメイカ漁獲量および CPUE  
平成 13 年は 11 月までの集計

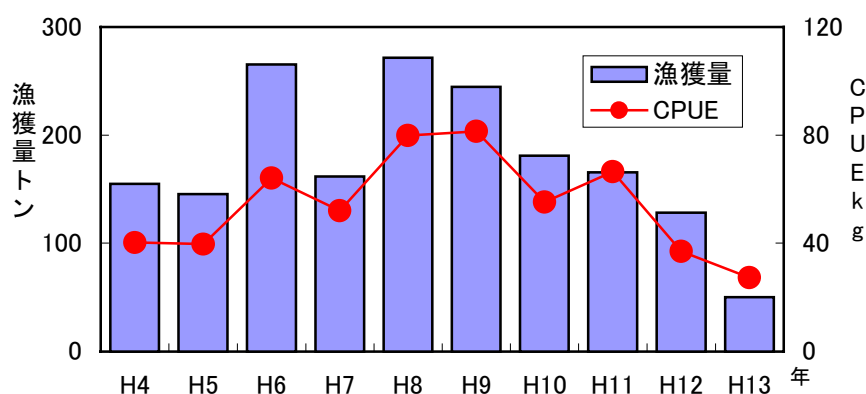


図 2 浜田地元小型船によるケンサキイカ漁獲量および CPUE  
平成 13 年は 11 月までの集計

平成 13 年のスルメイカの漁獲量(11 月までの集計)は 55 トンで、前年の 111%、平年の 28%と低調に推移しました。CPUE も 30kg で、前年の約 2 倍であったものの、平年の 54%と平年は大きく下回りました(図 1)。

水揚金額は 725 万円で、前年の 39%、平年の 10%、単価は 133 円/kg で、前年の 35%、平年の 35%と極めて低調に推移しました。漁獲量は前年に比べやや増加したものの、単価が低かったため、水揚金額は大きく落ち込んでいます。

#### ケンサキイカは不漁

平成 13 年のケンサキイカの漁獲量(11 月までの集計)は 51 トンで、前年の 39%、平年の 26%と極めて低調に推移しました。CPUE は 27kg で、前年の 74%、平年の 48%と前年および平年を大きく下回りました(図 2)。

水揚金額は 5,838 万円で、前年の 30%、平年の 41%と低調に推移しました。単価は 1,033 円/kg で、前年の 106%、平年の 113%と前年および平年をやや上回りました。

今年是对馬暖流域全体でケンサキイカ漁が振るわず、資源量そのものが少なかったと考えられます。

## 日本海のスルメイカ資源の動向

日本海のスルメイカ資源は良好！

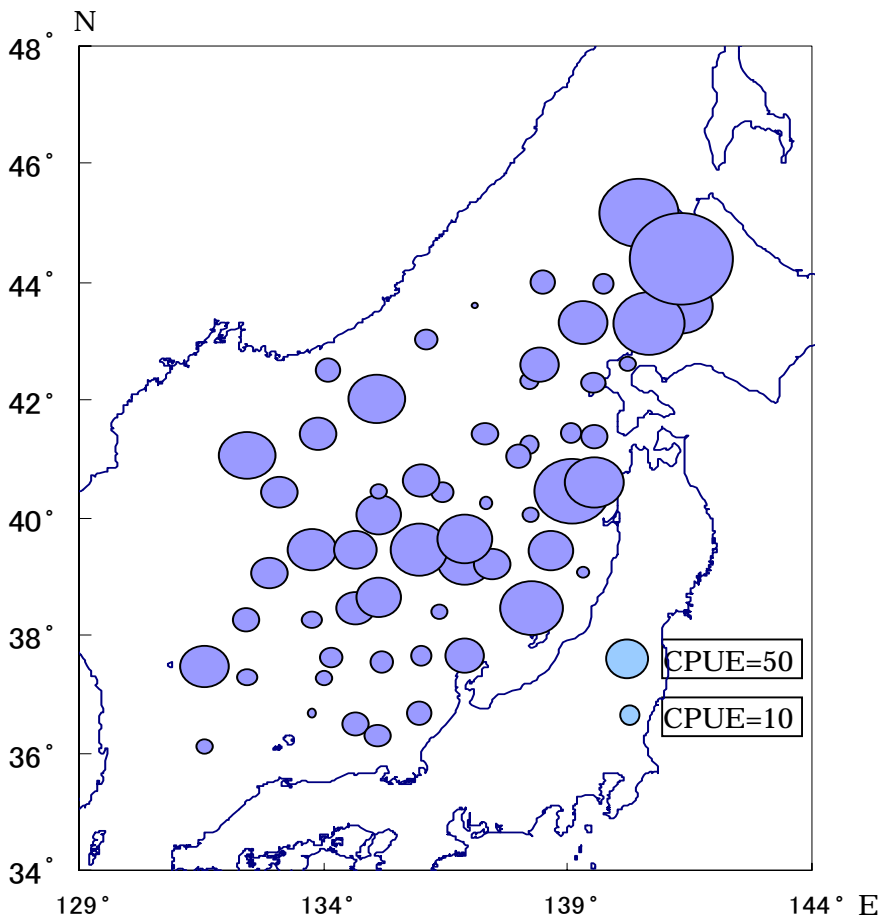


図3 スルメイカ漁場一斉調査によるCPUEの分布

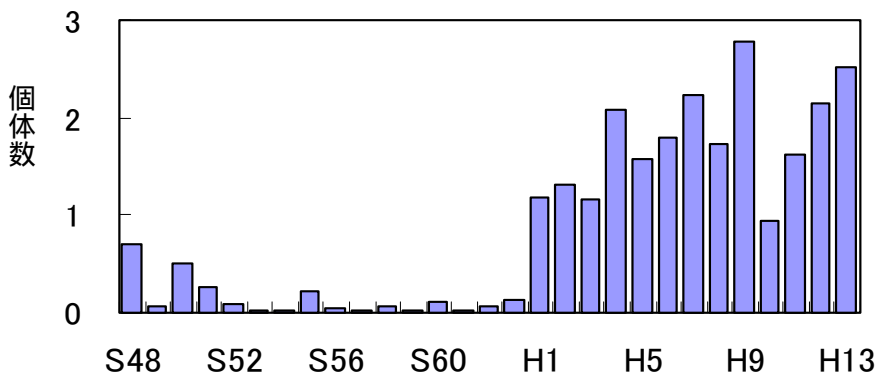


図4 スルメイカ稚仔調査における平均採集個体数

### 山陰沖のスルメイカ漁について

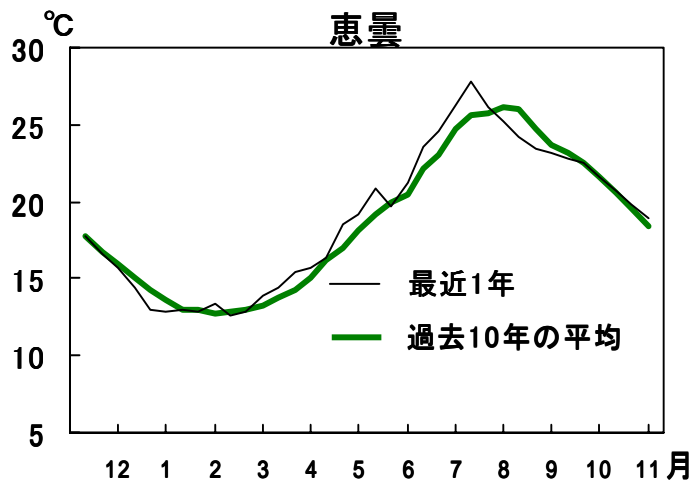
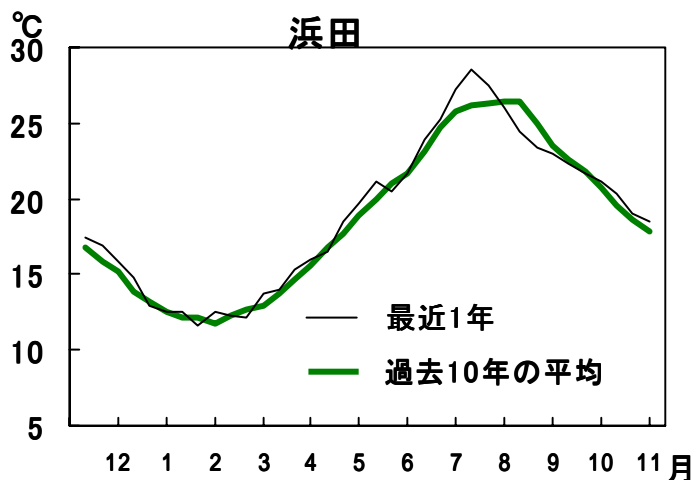
近年、日本海のスルメイカ資源は高水準にあるといえます。しかし、山陰沖のスルメイカ漁に限って見ると、従来主漁期であった3月から4月の漁が振るわず、秋から冬にかけての漁も、漁場が隠岐島以北に形成されることが多く、沿岸域に来遊することが稀になってきています。したがって、大型船は漁場を求めていけばよいのですが、沿岸域を中心に操業する小型船は、なかなかスルメイカの群れにあたらないといった状況が続いています。

図3に日本海区水産研究所(日水研)と日本海沿岸の道府県水産試験場が、平成13年6月下旬から7月上旬にかけて行った漁場一斉調査の結果を示します。図は日本海全域のCPUE(釣り機1台1時間当たりの漁獲尾数)の分布状況を表しています。CPUEはスルメイカの分布密度を示す数値ですが、全調査点の平均値は21.9尾と、前年(23.0尾)をやや下回ったものの、平成7~12年の平均値(17.3尾)を大きく上回り、日本海全体でのスルメイカ資源は高水準にあると判断されました。高密度分布域は北海道沿岸、秋田沖、佐渡島沿岸、大和堆付近で全体として北の海域に集中していました。魚体の大きさは沖合域で大きく、沿岸域で小さい傾向が見られました。ただし、秋以降、日本沿岸でのスルメイカ漁は不振で、昨年と同じように、高水温によるスルメイカ資源の沖合海域への分散が指摘されました。一方、平成13年10月に日水研が山陰沿岸から九州沿岸にかけて行ったスルメイカ稚仔の分布調査の結果(図4)によると、スルメイカ稚仔の平均採集個体数は2.5で、前年(2.2)を上回り、平成13年度の発生量は10月時点では非常に高い水準にあるといえます。

## 《 11月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.3	+0.7	やや高め
恵曇	19.8	+0.3	平年並み

11月の月平均水温は10月に比べ浜田で2.4、恵曇では2.5 下降しました。浜田で「やや高め」、恵曇では「平年並み」の水温経過となりました。



島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果（12月上旬）によると、沿岸から隠岐諸島にかけての表層から底層は、水温17以上の暖かい海水で覆われていますが、隠岐諸島の北西約40マイルには冷水域がみられます。9月から11月まで観察されてきたこの冷水域の北への移動は12月になって南下傾向に移りました。さらに隠岐諸島の北東約20マイルの底層にも冷水域が形成されています。一方隠岐諸島の北方60マイルには暖水域が見られます。底層では冷水域周辺に強い潮境が形成されています。さらに隠岐諸島の周辺の底層では複数の冷水域と暖水域が接しているために、複雑な潮流が形成されていることが予想されます。

山陰沿岸海域の水温は、表層では冷水域周辺で「平年並み」のほかは全般に「やや高め～かなり高め」。中層および底層では冷水域とその周辺で「平年並み～やや低め」、そのほかは全般に「やや高め～かなり高め」となっています。

## 《 11月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマサバ、マアジ主体に1,131トン、水揚金額は1億2,891万円でした。また、1統当たりの漁獲量は283トンで前年の87%、平年の28%と、前年をやや下回りました。水揚金額は3,223万円（前年比：126%）で前年をやや上回っています。恵曇では、ブリ、マアジ、ハガツオ主体に総漁獲量7トン、水揚金額は330万円でした。1統当たりの漁獲量は1.5トン（前年比：2%）、水揚金額は66万円（前年比8%）でした。浦郷ではマサバ、ウルメイワシ、カタクチイワシ、マアジ主体に総漁獲量979トン、水揚金額は7,616万円でした。1統当たりの漁獲量は245トン（前年比：125%）、水揚金額は1900万円（前年比：107%）でした。まき網漁業の再編によって、恵曇地区では出漁日数が大きく減少しています。

### 【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は、スルメイカを中心に3.7トン（前年比：38%）と極めて低調な水揚げとなりました。スルメイカは20～25入りが主体でした。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカ・ソデイカを中心に86トン（前年比：133%）の水揚げで、こちらは前年をやや上回りました。浜田、西郷ともにケンサキイカが前年の10分の1以下に落ち込んでいます。

**【沖合底びき網漁業】**

浜田港の沖底の漁獲量は 358 トン、水揚げ金額は 2 億 23 万円、1 統当りの漁獲量は 59.7 トン（前年比：104%、平年比：119%）水揚げ金額は 3,337 万円（前年比：116%、平年比：148%）でした。漁の主体はムシガレイ（前年比：160%）アナゴ類（前年比：168%）アンコウ（前年比：119%）となっています。

恵曇港の沖底の漁獲量は 194 トン、水揚げ金額は 1 億 2,144 万円、1 統当り漁獲量は 48.4 トン（前年比：122%、平年比：115%）水揚げ金額は 3,036 万円（前年比：132%、平年比：117%）でした。漁の主体はヤナギムシガレイ（前年比：204%）アナゴ類（前年比：203%）となっています。

**【小型底びき網漁業】**

大田市・和江漁協とも前年に比べ出漁日数が大きく減少したため量・金額ともに前年を下回りました。また、1 航海当り漁獲量は前年並み、水揚金額は前年をわずかに下回りました。和江漁協ではカレイ類・キダイが好調に推移しましたが、イカ類は低調に推移し、前年の 20～40%に留まっています。大田市漁協では主要種のソウハチ・ニギスが低調に推移しました。一方、キダイはまとまった漁が見られ、前年の 14.5 倍の漁獲がありました。

**【定置網漁業】**

隠岐地区ではマアジ、スルメイカ、ブリ主体に、前年の 58%の量となりました。浦郷地区では設置場所の内湾への移動を例年より早くしたため、スルメイカが増加し、逆にソウダガツオ、マサバなどの青物が減少しました。県東部では、ソウダガツオ・ブリ主体に前年の 20%の量でした。県西部ではマアジ、ムロアジ類、マサバ主体に前年の 80%の量でした。県全体では前年の 5 割程度の量となり、ムロアジ類、マサバ、チダイ、ソデイカなどが比較的好調であったものの、全般的に不調となりました。今後、水温の低下とともに、スルメイカ、ブリの時期が到来しますが、ブリは、佐渡島、能登半島などで漁が活発化しており、今後の漁に期待したいものです。

**【釣・縄】**

県西部ではヒラマサ、ブリ、クロマグロ（ヨコワ）、シイラを中心に量・金額ともに平年をやや上回りました。県東部ではサワラ、ブリを主体に量はほぼ平年並み、金額は 10%前後上回りました。隠岐はソデイカ、キダイ、ヨコワ、メダイを主体にほぼ平年並みの量でしたが、金額は平年をやや下回っています。このように、沿岸の釣・縄は全体的には平年並みの漁模様になったようですが、依然としてケンサキイカおよびスルメイカ漁は低調が続いています。

**漁獲統計**

平成 13 年 11 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当り漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	53	マサバ・マアジ・カタクチ・ブリ	21.3 トン	1,131 トン
	恵曇	13	ブリ・マアジ・ハガツオ	0.5 トン	7 トン
	浦郷	53	マサバ・ウルメ・カタクチ・マアジ	18.5 トン	979 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	41	スルメイカ	89Kg	3.7 トン
	西郷	270	スルメイカ・ソデイカ	318Kg	86 トン
沖合底びき網	浜田	27	ムシガレイ・アナゴ類・アンコウ	13.3 トン	358 トン
	恵曇	31	ヤナギムシガレイ・アナゴ類	6.3 トン	194 トン
小型底びき網	和江	324	キダイ・ソウハチ・アンコウ	725Kg	235 トン
	大田市	251	ソウハチ・キダイ	541Kg	135 トン
定置網	浜田	79	マアジ・ムロアジ類・マサバ	1,000kg	79.4 トン
	恵曇	31	ソウダガツオ・ブリ・マアジ	210kg	6.6 トン
	浦郷	51	マアジ・スルメイカ・ブリ	350kg	17.6 トン
釣・縄	浜田	279	ヒラマサ・ブリ・サワラ	68kg	19.0 トン
	五十猛	102	クロマグロ・シイラ	150kg	15.3 トン

1 隻(統)1 航海当り漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。